

# IT技術による“つなぐ”工法ナビ

川合 孝

KAWAI Takashi

(株)協和エクシオ  
都市土木設計積算G



## 1. はじめに

日本非開削技術協会（JSTT）季刊誌創刊100号おめでとうございます。現在工法ナビは、JSTTの活動内容の柱の一つとして運用されていることを聞き、開発者として、大変嬉しく思っています。また、記念号での執筆ができること嬉しく思います。

工法ナビの開発は、情報化社会におけるIT技術を利用しつつ、ハートを持つ土木関係者への展開として、全てが機械任せではなく、逆の発想として、最終的判断には、人間の思想を多く取り入れられる対話型を採用した柔軟な対応を可能とするシステムづくりを目指していました。

ここでは、工法ナビの開発導入を中心に思い出を紹介したいと思います。

## 2. “4つのつなぐ”を開発コンセプトに

開発当初、推進工法は、工法や材料の多様化、長距離・急曲線施工など技術的進歩が著しい時期を迎えて

いました。そのため、設計者は情報不足により最適な工法選定が行えず工事を計画してしまう危惧がありました。一方、工法や商品を保有する団体においては、情報発信など個別での営業展開において限界を感じていました。

そこで、一般化されつつあるインターネットの活用が効果的であると判断し開発に着手しました。

サービス方法は、利用者と登録者間を、

- ①3つの条件から工法選択（推進工法は、カタログ値・検討範囲値・実績値の中から選択可能）
- ②利用満足度によるランキング管理による情報提供（表示順変更などデータの公平性）
- ③パンフレットやPRビデオ配信による登録団体の営業支援や、問い合わせ仲介。
- ④よろず相談窓口（産学専門分野での人材を相談窓口として登録）

の4つの“つなぐ”を開発のコンセプトとして、ホームページの作成を行いました。

システムの一部機能では、ビジネスモデル特許を取得することができました。現在では所有権を放棄しています。



写真-1

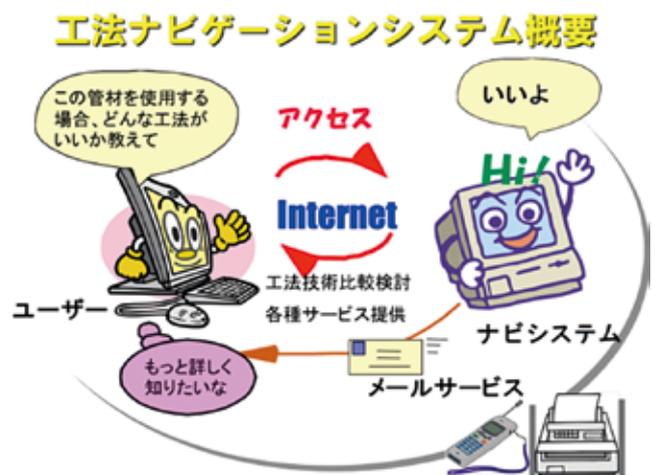


図-1 工法ナビ“つなぐ”の概念

### 3. 条件の異なるデータベースからの選定

各工法のデータベースは、推進工法に更なる発展ができるよう、利用者に対し採用条件を拡大して選定が行えるよう、

- ①カタログ値（標準的な検索条件）
  - ②検討範囲値（検討することにより施工可能な条件）
  - ③実績値（適用範囲の拡大を含めた施工実績）
- の内容で登録しました。

### 4. 苦労したデータ収集

登録データは、選定条件を容易にするため、現在の日本推進技術協会が発刊する技術資料の適用区分などに準拠したフォーマットを作成し、登録団体へデータの作成を依頼しました。しかしながら、市中工法を統一したフォームとしてデータ化する作業は難しいことから、登録データは、各団体への依頼やデータ精査など、推進工法に精通した長谷川さんの努力により成し遂げられたと言っても過言ではありません。そのため、現在でもJSTTでデータ整備についてご苦労されています。



写真-2 登録データ整備にご尽力いただいた長谷川さん

### 5. 株式会社ユーナスの存在

工法ナビは、故四本氏により発案されました。運営は、システム製作やサービス展開を行うための第三者機関として株式会社ユーナスの設立、また、登録データの精査機関として、JSTT内に委員会を設置し2003年10月より本格運用を開始しました。結果は順調で、半年後には登録者1000名、ログイン回数は8000回を超えるまでに至りました。また、登録工法においても、31団体67工法と充実することができシステムの

有用性を認識しました。成長著しいIT産業でのシステムの大改修の必要性と管更生などサービスの追加を期に、2009年に運用の全てをJSTTに移管しました。



写真-3 左から、筆者、故小幡ユーナス社長、ナビ発案者：故四本さん

### 6. 登録団体での工法ナビ普及協力に感謝

サービスの普及拡大は、本誌での広告掲載をはじめ、下水道展での実演紹介、土木学会での講演会などを行いました。中でも記憶に残るのは、工法ナビへの登録を促すために、下水道展では登録団体のブース内に登録工法であることを示すステッカーを掲載いただけたことにより、登録数を充実することができました。



写真-5 下水道展ブースでの登録ステッカー

### 7. おわりに

現在工法ナビは、日々大変多くのアクセスがあると聞いています。これは、知りたい側と紹介側で良い関係が築かれているものだと考えます。

最後に、工法ナビを通じ非開削技術がより多くの利用者、登録団体での“つなぐ”により非開削技術が益々飛躍することを願っています。